

玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会（第50回）

日時： 平成23年10月26日（水）午後3時
場所： 京都大学北部総合教育研究棟1階 益川ホール
(市バス「京大農学部前」下車 京都大学北部構内)

巨大地震と津波

1. 「2011年東北地方太平洋沖超巨大地震（Mw9.0）が我々に伝えること」

京都大学大学院理学研究科 教授 平原 和朗 先生

東北地方太平洋沖地震はMw9.0の超巨大地震で、強震動特に巨大な津波を発生させ、東北から関東におよぶ広い地域に未曾有の大災害をもたらしました。私を含む多くの地震学者はこの地震の発生を前にして、想定外という術しか持たず言葉を失いました。

では、いったい何を想定していたのか、またなぜ、どのようにしてこの地震は発生したのか、現在までに分かったこと、依然不明なこと、といったこの超巨大地震が我々に発するメッセージについてお話したいと思います。

さらに、この地震の発生を受けて今世紀前半に起きると危惧されている南海トラフ巨大地震とどのように向き合うかについても少しお話したいと思います。

2. 「地層に記録された巨大津波の警告」

産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター長

岡村 行信 先生

東北地方太平洋沖地震は想定外の地震であると言われていたことが、西暦869年（貞観11年）に仙台付近で巨大地震と巨大津波が発生していたことを示す歴史記録があり、また仙台平野などの地層中には巨大津波が繰り返し襲っていたことを示す津波堆積物が存在することも知られていました。特に津波堆積物の詳細な調査によって、津波の浸水域を明らかにし、数値計算によって震源モデルの推定も行われていました。

このような研究によって地震前にどこまで明らかになっていたか、実際に発生した地震と比較して何が足りなかったかを解説します。

また、東北地方以外の津波堆積物についても簡単に紹介します。

申込は不要です。多数の皆様の来聴を歓迎致します。

主催 京都大学理学部（財）湯川記念財団